

# 1

## 第3学年における 学級経営の ポイント

はじめに ……1  
本書活用のポイント ……2

学級経営を充実させるために ……8  
3年生ってこんな学年! ……10  
3年生ってどんな子ども? ……12  
3年生の集団づくり ……14  
3年生の学習の進め方 ……16  
3年生への言葉かけ ……18  
3年生担任のリーダーシップ ……20

# 2

## 第3学年の 学級経営

**4月** 語りを通して、1年間を貫くキーワードを示す ……24

始業式までの過ごし方 ……26  
学級開き① ……28  
学級開き② ……30  
自己紹介 ……32  
自己省察(4月) ……34  
言葉遣い ……36  
目指せ聞き方名人 ……38  
一人一役当番 ……40  
給食・掃除指導 ……42  
宿題① ……44  
社会 ……46  
理科 ……48  
外国語活動 ……50  
総合的な学習の時間 ……52  
朝の会・帰りの会 ……54  
朝・昼学習 ……56  
3年生としての道徳科 ……58  
休み時間の過ごし方 ……60  
1年の目標を決めよう ……62  
教室掲示 ……64  
学級目標 ……66  
授業参観①・懇談会 ……68

**5月** 3年O組宣言をつくって、本格スタートする5月 ……70

席替え ……72  
自己評価を取り入れる ……74  
社会見学 ……76  
リレー習字 ……78  
会社活動① ……80  
学級会① ……82  
協働学習を取り入れる① ……84  
宿題② ……86  
保護者への発信(学級通信) ……88

**6月** 学級文化を高める6月 ……90

避難訓練 ……92  
雨の日・暑い日の過ごし方 ……94  
プール指導 ……96  
土曜参観 ……98

**7月** 振り返りを通して2学期につなげる ……100

成績① ……102  
成績② ……104  
個人懇談① ……106  
2学期に向けて ……108  
夏休みの過ごし方「一人一台端末」(情報モラル) ……110  
夏休みの課題(自由研究) ……112  
終業式(1学期) ……114

**8月** 教師も楽しみにしている夏休みを最高の時間に ……116

研究授業に向けて ……118  
休暇 ……120  
学び場はすぐそこに ……122  
まず、1冊だけ読む ……124  
2学期の始業式準備 ……126

**9月** 子どもたちと見通しを共有し、目標を設定する ……128

2学期始業式 ……130  
運動会に向けて ……132  
運動会① ……134  
運動会②(校務分掌) ……136  
運動会③ ……138  
キャリア・パスポート① ……140

## 10月 「2年生に近い3年生／4年生に近い3年生」を考える ……142

- 学級会② ……144
- 協働学習を取り入れる② ……146
- 会社活動② ……148
- 授業参観② ……150
- 研究授業 ……152

## 11月 学校行事でがんばる自分をイメージさせる ……154

- 学習発表会（理論編） ……156
- 学習発表会（実践編） ……158

## 12月 Jamboardで自分たちの姿を振り返る ……160

- お楽しみ会 ……162
- 年末年始の過ごし方 ……164
- キャリア・パスポート② ……166
- 個人懇談② ……168
- 終業式（2学期） ……170

## 1月 2024年の自分をバックカasting思考で考える ……172

- 3学期始業式 ……174
- 書初め ……176
- 特別活動 ……178

## 2月 先生が銅像になって 子どもたちが主体的に学ぶ場を提供する ……180

- 授業参観③ ……182
- 学年懇談会 ……184
- クラブ見学会 ……186

## 3月 デジタルの寄せ書きで資質・能力を 4年生へつなぐ ……188

- 6年生を送る会 ……190
- キャリア・パスポート③ ……192
- お楽しみ会 ……194
- 学級じまい ……196
- 自己省察（3月） ……198
- 修了式 ……200

執筆者一覧 ……202

# 3年生って こんな学年！

3年生って、いったいどんな学年でしょうか？

新しい教科がたくさん始まる学年？

まだまだ素直でかわいらしい学年？

ここでは、「3年生ってどんな学年？」ということと一緒に確認していきましょう。

## 1 新たな学習が一気にスタート

3年生と言えば

### 新たな学習が一気に始まる学年

と言えます。新しい学習と出会うのは、3年生のほかに5年生しかありませんが、3年生は5年生と比べても多くの学習と出会う学年となります。

では、どのような学習と3年生の子どもたちは出会うのでしょうか？

- ・社会
- ・理科
- ・外国語活動
- ・総合的な学習の時間

時間割で見ても、これだけの学習が増えるのです。6時間授業も2年生の頃と比べると多くなっています。

また、時間割には表れませんが、

- ・習字
- ・リコーダー
- ・ローマ字

なども、3年生の大きな学習と言えるでしょう。

こうしたことを念頭に入れて、1年間を考えることが大切です。

## 2 学校生活をより主体的に過ごせるように

また、次のようなことも言えます。

学校生活が、低学年の頃に比べて、さらに慣れてきている

もちろん、個人差はありますが、学校へ登校する、学校で生活するということに対して負担がなくなっていることはもちろん、「どうやって学校生活を送ろうか」と、自分から主体的に関わることができるようになってきているとも言えます。

こうした利点も存分に生かしていきましょう。

低学年の頃であれば、先生にやってもらっていたようなことも

「みんなの力でやってみる？」

と、子どもたちに学校生活のかじ取りを譲り始めることができる学年とも言えます。

この視点を、学級経営にも存分に生かしていきましょう。

## 3 本格的な「子ども－子ども」の関係が始まる

また、3年生という学年は「他者」をようやく意識することができる発達の段階にあるとも言えます。

低学年の頃は「先生－子ども」がメインだった人間関係も、「子ども－子ども」という関係が本格的に生まれ始めてきます。

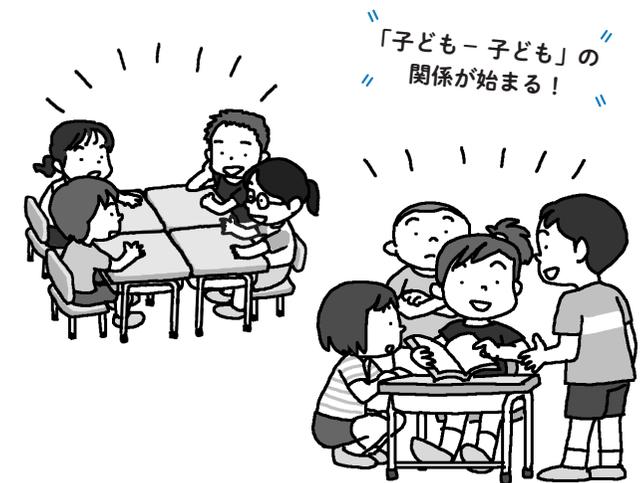
放課後でも、子どもたちだけで遊ぶ時間が長くなり、だんだんと「子ども（だけ）の世界がつくられ始める」とも言えます。

子どもたちの発達の段階から見ても、他者の存在が認められ始める時期です。

この発達をどれだけ活用できるかで、3年生の1年間は決まってくるのです。

### 新たな学習がスタート！

	月	火	水	木	金
1	国語	算数	国語	算数	学活
2	算数	音楽	算数	国語	外国語活動
3	体育	国語	体育	社会	総合
4	国語	体育	道徳	総合	社会
5	理科	国語	図工	体育	理科
6		国語	図工	国語	算数



## Jamboardで自分たちの姿を振り返る

## ▶12月の目標

7月に続いて3年生として2度目の学期末。2学期の振り返りを丁寧に行うことに変わりはありませんが、視点としては「4年生に近い3年生」として2学期をどう過ごせたのか、または3学期をどう過ごしていきたいのかを振り返るようにさせましょう。そのような意識をもたせることで、日常の学校生活の意識を高めるようにしていきます。

## 12月の学級経営を充実させるために

12月も7月と同じように、3週間程度しか学校に登校しませんので、何か新しい取組を始めるといっても、これまでの学級を振り返る時期であると言えるでしょう。

ただし、1学期に比べると、ずいぶんいろいろな点で子どもたちは高まりを見せている時期であるとも言えます。

具体的に、どのような視点で子どもたちを振り返ればいいのでしょうか。

- ・男女の仲はどれくらいよいか。授業中、どの男女も関係なく話をするができるかどうか。また、休み時間はどれくらい男女で過ごしているか（休み時間は必ずしも男女で過ごさなければならないわけではない）。
- ・どれくらい子どもたちが協働的な学びを進めることができるかどうか。子どもたちの雰囲気や協働学習の発言の内容はどうか。どれくらい自分たちで学習を進めようとしているか。
- ・一人一役当番や給食当番、掃除当番はどうか。スピーディーに正確にこなすことができるかどうか。必要なことは話し合い、自分たちで問題解決をしているか。

そんな視点で、学級を振り返ってみましょう。

これまでの子どもたちの成長と自分自身の実践の成果を見つめることができます。ぜひ、丁寧に振り返りをするようにしてください。

## 注意事項

12月は特に「できていること」「成長したところ」を中心に振り返りを行うようにしましょう。3学期は、ここまでの取組を次年度へと伝えていく時期です。子どもたちができるようになったことを、4年生へと引き継げるようにしてください。

## Jamboardで自分たちを振り返ろう

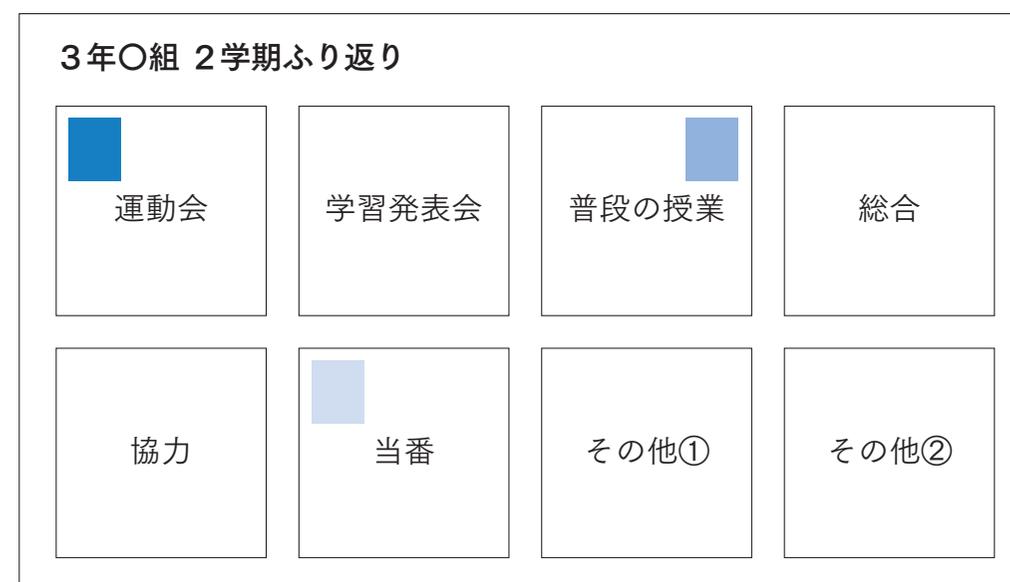
## ▶ねらい

6つの視点をもとに、自分たちの2学期の姿を振り返り、できたことやできなかったことを明らかにすることを通して、3学期への意欲につなげるようにし、自分たちの行動や心情をよりよくしていこうとする態度を育てる。

## ▶活動例

Googleによる「Jamboard」を活用することで、以下のような取組をすることもできます。

1. 下のようなJamboardを作成しておく。スペースが小さいと感じた場合は、「その他」を消してもよい。



2. 子どもたちに2学期の振り返りをするを告げる。付箋機能を使ってみんなで付箋を書き溜めていく。その際、「4年生に近い3年生としてどうだったか？」を考えて付箋を書くように伝える（よかったことは黄色、よくないと思ったことはピンク、分からないと思ったことは緑などで色分けするとよい）。
3. 完成したものをプリントアウトし、教室に掲示する。2学期末のキャリア・パスポートでは、これを参考に個人の振り返りをさせるとよい。

## ▶活動後のポイント

完成したものをキャリア・パスポートに活用することはもちろん、3学期にも活かしていくとよいでしょう。掲示することで、いつも自分たちの姿を振り返ることができます。ぜひ、役立ててみてください。

# 学級開き ①

## ねらい

「はじめまして」の適度な緊張感がある中で、安心を感じることができる1日にする。

## 指導のポイント

とにかく焦らないことが大切です。初日は時間に追われます。しかし、初日だからこそ丁寧にやるのが大切です。この1日で、これから1年間の流れが決まります。やりたいことは最小限にして、まずは新しい仲間との出会いを楽しめるようにしましょう。

## ▶ 自己紹介カード

自己紹介カードは「今」の自分を知ってもらうものになります。自由度の高い枠のものを用意して自分らしさを伝え、新たな気付きから子どもたち同士のつながりを深めるようにしていきましょう。

☆わたしのトリセツ☆

名前	誕生日
趣味	得意なこと
好きなもの	ちょっと苦手かも…
今、夢中になっていること！	
これだけはだれにも負けない！	

## ■ 自己紹介カードの記入



## ■ 叱るときの基準

- |                                                                |                                                                               |                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>命に関わる時</b><br>危険な行動が見られたとき、命を大切にしていないときは、みんなが安心できないことを伝えます。 | <b>人を傷つけたとき</b><br>汚い言葉をかけたり、暴力などをしたりするなど、相手のことを考えていない行動についても、しっかりと考えるよう伝えます。 | <b>自分を大切にできなかったとき</b><br>人と生活する上で、相手だけでなく、自分のことも大切にします。自分が傷ついたことを、そのままにしないことを伝えます。 |
|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|

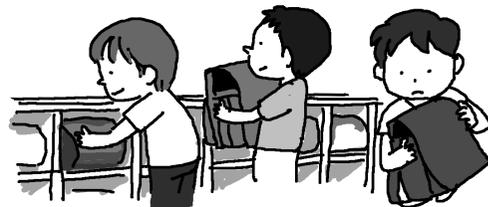
## 学級開きの展開

### 01 担任の自己紹介をする



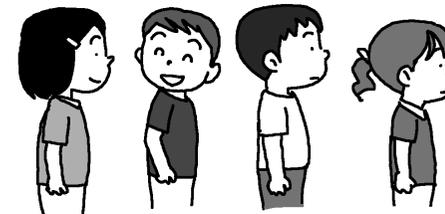
担任の自己紹介をクイズ形式にします。パワーポイントを使い、写真や音声を変えながら楽しい出会いにします。このとき、必ず伝えるのは叱るときの基準です。これが学級の安心を生みます（右上図参照）。

### 02 場所を指定する



環境が整っているとやる気も湧いてきます。初日は何をどこに片付けるのかを丁寧に確認し、明日から1人でできるように場所を明確にします。きれいな状態の掲示物もあれば見本となり、なおよいでしょう。

### 03 避難経路を確認する



教室の場所や靴箱の場所など、必要な場所の確認が終わったら、避難経路も忘れずに確認しましょう。いざというときは、いつ来るのか分かりません。だからこその備えが必要です。

### 04 配布物を確認する



たくさんの配布物の中に、確認しておいたほうがいいものもいくつかあります。提出書類の期限を確認して、自分でお家の人に頼むように声をかける必要があります。

# 運動会③

## ▶ 競技・演技ごとに工夫する余地

運動会では、競技や演技で誰と工夫するのが変わります。例えば、下のようになります。

- 個人走：自分の工夫
- 団体競技：同じ仲間（組別など）との工夫
- 団体演技：学年全員との工夫

つまり、運動会では自分はもちろんのこと、同じ仲間や学年集団という大きな枠組みで力を合わせて臨むことができます。

この機会を子どもたちが教えてもらったことだけに全力を注ぐのはもったいないと思いませんか。そこで、大切にしたいことは、子ども自身が試行錯誤できる余地です。例えば、団体演技を子どもたちに考えさせるなどが挙げられます。

教師だけでなく、子どもたちも考え、「自分たちで取り組んだ運動会である」という自信につなげてあげましょう。

### ▶ ねらい

子どもが自分たちの力でやり切ったと思える運動会にする。

### ▶ 指導のポイント

運動会では、よく子どもも大人も何の種目をするのか、どんな演技をするのかに興味をもちます。しかし、指導者としては種目や演技内容に加えて、その過程も大切にしたいものです。「一方的に教えて終わり」ではなく、子どもたち自身が工夫する余地を与えてあげることが大切です。自分が工夫したことで、褒められれば自信につながります。そんな運動会を目指してみては、どうでしょうか。



## 運動会を考える

### 01 個人走を考える



中学年ではトラックの半周、または一周を走ることがよくあります。工夫させたいポイントは、カーブの走り方です。外側の手を大きく振ったり、体の角度を変えたりする工夫がありますが、子どもがICT端末を使って、走り方の研究時間を取るのもよいでしょう。

### 02 団体競技を考える



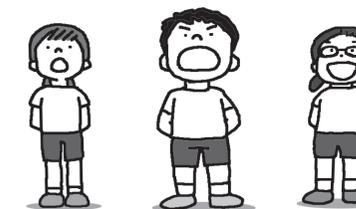
綱引き・棒引き・台風の目など様々な種目があります。どの種目においても、必ず作戦タイムを設けてあげましょう。相手チームにばれないように考える環境をつくれれば、子どもたちは真剣に議論し始めるはずです。

### 03 団体演技を考える①



振り付けの一部分を子どもたちに考えさせてみましょう。同じ拍の中で、様々なグループが一齐に違う動きをすると、迫力があります。考えさせる部分としては、サビ以外にするとよいでしょう。サビは、全員が揃う振り付けを考えると迫力が出ます。

### 04 団体演技を考える②



入場を考えさせます。考える際は、言葉を考えさせるといいでしょう。入場の際に、子どもたちが意気込みを語れば、1つの見せ場となります。自分たちの思いを言葉にのせ、演技に入ると顔つきががらりと変わります。

# 理科

## ▶ 体験を通して問題を見いだす

理科では実物に触れ、体験していく学習を大切にしています。その体験から問題を見だし、理科の見方・考え方を働かせながら、その問題を解決していきます。



## ▶ ねらい

ビンゴゲームを通して、自ら問題を見だし解決していこうとする態度を育む。

## ▶ 指導のポイント

3年生で理科の学習が始まります。子どもたちは、「どんな学習をするのだろう」と、ワクワクしていることでしょう。このワクワク感を大切に、理科が楽しいと思えるような授業を考えていくことが大切です。また、子ども自身が問題を見だし、解決するために観察・実験をしていきたいという気持ちを育てられるようにしましょう。

## 活動の展開

### 01 ネイチャービンゴで自然観察

自然の生き物に興味をもたせるために、ネイチャービンゴを活用します。まずは、右のワークシートを配ります。枠の中に当てはまる生き物は、学校の中にある生き物です。考えさせると、様々な答えが出てくるでしょう。

#### 【発問例】

- T:「枠の中に入る生き物は、学校にいます。どんな生き物が入るでしょう」  
 C:「黒い生き物はダンゴムシだね」  
 C:「黒はアリじゃないかな」  
 C:「他にもたくさんありそうだよ」  
 C:「ん？黄色って何だろう？」

### 02 自然観察に出かける

左の話合いをしていると、子どもたちに観察して確かめたい・観察しないと分からないという思いが生まれます。その「観察したい」を取り上げ、自然観察に出かけましょう。

このゲーム的な活動には、「子どもが考え・疑問を抱き・解決したい」という3要素が込められています。ゲームを通して、楽しく学び、新しい発見が生まれるようにしてあげることが大切です。

## ネイチャービンゴ

年 組 名前 \_\_\_\_\_

□には、学校の中にある生きものが入ります！

□の中の言葉をヒントに考えてみよう！

「しょくぶつ」も「どうぶつ」も生きものに入るよ！

黒色	まるい形	つるつるしてる
ぎざぎざしてる	赤色	手より大きい
白色	細長い	黄色

# 避難訓練

## ねらい

避難訓練を実施する意義や自身の役割を理解し、不測の事態に対応できる力を身に付けるとともに、訓練内容によって異なる動きがある場合は、それぞれの動きも理解する。

## 指導のポイント

避難訓練では、誰のために実施しているものなのかを正しく理解しておく必要があります。当事者意識がないままの実施は、ただの訓練にしかありません。子ども、教職員、学校組織全体で取り組んでいるということを教師自身が自覚するだけでなく、子どもにも理解してもらい取り組んでもらう必要があります。意識が変わるだけで訓練の充実感は大きく変わります。

## 訓練前の準備

下には、主な4つの訓練を紹介しましたが、各訓練には、共通点があります。大切なことは、「子どもも教師も安全に避難する」ということです。

そのためには、事前の準備（意識）が重要です。起こるかもしれないという想定をしておくことが、いざというときに動けるかを大きく左右します。また、自分が動けるだけでなく、子どもにも動いてもらうためには、きちんと伝えておくことが重要です。

起こる確率は非常に低いかもしれませんが、決して0%ではありません。その意識を自分自身だけでなく、子どもたちにももってもらうことは、より安全な学校をつくるためにも不可欠です。

多くの学校が学期に1回以上避難訓練を実施しています。まずは、それぞれの訓練前に自分の役割を必ず確認しておきましょう。そして、訓練後には自分自身の行動を子どもたちと一緒に見直す時間を取るとよいでしょう。

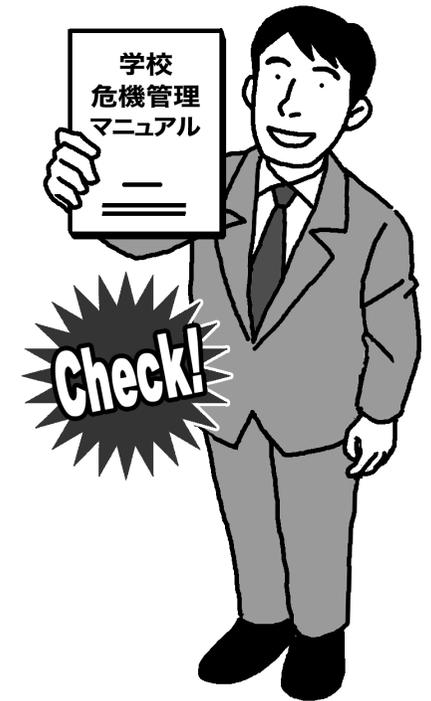
## 危機管理マニュアルの重要性

あなたは、危機管理マニュアルの存在を知っていますか？手元には危機管理マニュアルはありますか？

学校安全計画及び危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）は、各学校で必ず策定を義務付けられています。危機管理マニュアルは学校ごとの策定のため、載っている内容に違いはあるものの、避難訓練だけでなく、多くの緊急時の対応が載っています。

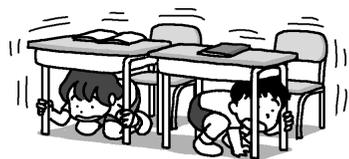
もちろん、各避難訓練の内容や対応などについても載っています。みなさんがよく見ている学期に1回の各避難訓練の要項は、危機管理マニュアルから抜粋していると考えるとよいでしょう。そう考えると、全てが危機管理マニュアルにつまっているということが分かると思います。

一度あなたの学校の危機管理マニュアルに目を通してみましょう。訓練の必要性だけでなく、組織として危機管理をどのようにマネジメントしていくのかが見えてきますよ。



## 4つの避難訓練の展開

### 01 地震対応避難訓練



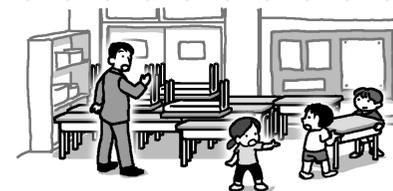
地震が、起きたらまずは身を守ります。しかし、それは場所によります。自教室であれば机の下、廊下であれば近くの教室、もしくは外に出る。校庭であれば、建物が倒壊してこない位置等。起こった場所によって判断できるように、事前に学校で起こる想定をしておき、子どもたちに伝えておきましょう。

### 02 火災対応避難訓練



火災が起こり得そうな場所は、ある程度は想定できます。避難経路を確認しておき、火災が起きた場所を通らずに、最短ルートで校舎外に出られるルートをあらかじめ想定しておきましょう。また、逃げる際は、姿勢を低くすること、ハンカチなどで口元をおさえさせ、煙を吸わないことが重要です。

### 03 不審者対応避難訓練



校舎内、教室に入れないことが重要です。教室で起こった際には、すぐに教室を施錠し、入口や窓側には机や椅子でバリケードをつくらせましょう（机を寄せるだけでもOK）。担任は子どもから離れてはいけません。応援を呼ぶ際もその場から大声を出したり、笛を吹いたりして呼びましょう。

### 04 津波対応避難訓練



地域にもよりますが、地震対応避難訓練とセットで行われる場合が多いと思います。「地震＝外に出る」と考えることは大切な考えですが、その先に津波が押し寄せている場合は、かえって危険です。その後の放送も逃さず聞きましょう。また、「地震の後には津波も来るかもしれない」という意識をもちましょう。